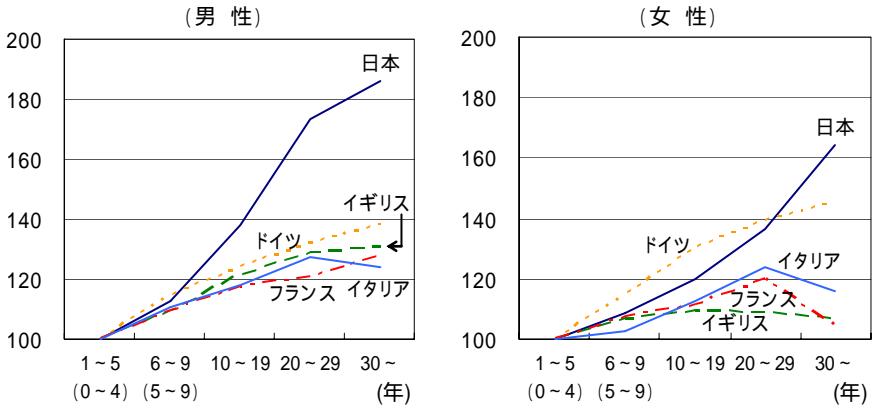


6 賃金・労働費用

6-4 賃金の勤続年数別格差（製造業、2002年）

（勤続年数1～5年(日本は0～4年)の賃金 = 100)



▶ グラフの具体的な数値および資料出所については、「第6-5表 賃金の勤続年数別格差（製造業）」(p.172)を参照。

グラフは日本、イギリス、ドイツ、フランス、イタリアについて、勤続年数1～5年（日本については0～4年）の賃金を100としたときの勤続年数別賃金指数（格差）である。

まず男性についてみると、日本については勤続年数が長くなるにつれて、勤続年数別賃金指数が上昇し、勤続年数20～29年までその成長スピードも増す。特に勤続年数30年以上では勤続年数0～4年の約1.8倍に達する。他の国々においては、イギリス、ドイツ、フランスでは勤続年数30年以上で約1.3倍、そしてイタリアの勤続年数20～29年で約1.3倍となる。一方、女性の場合は、男性に比べて勤続年数間の賃金格差は概して小さいといえる。